

徳島ペンクラブ通信



1967年(昭和42年)創立

181号

2018年9月14日
(平成30年)

発行

徳島ペンクラブ

徳島市東沖洲2丁目1-13
徳島県教育印刷(株)内
TEL 088-664-6776

第19回 とくしま随筆大賞



渡辺恵子さん

「最後の葉っぱ」

準大賞 田中康子さん

徳島ペンクラブ主催のとくしま随筆大賞は、応募のあった46編を、7月下旬に一次選考委員六名(田上倉平、鈴木綾子、西池冬扇、上窪則子、竹内紘子、山口久雄)による審査の結果、10編を本審査に推薦した。本審査は8月初旬に依岡隆児(徳島大学教授)柏木康浩(徳島新聞生活文化部次長)丁山俊彦(徳島ペンクラブ会長)竹内菊世(徳島ペンクラブ顧問)によって審議され、その結果、大賞に渡辺恵子さん(59)「最後の葉っぱ」が選ばれた。同随筆は、文学少女だった作者と学歴偏重主義の母との軋轢の中、華道家の祖母から生け花を通して心の在り方を教えられたもの。準大賞は、田中康子さん(79)「徳島市国府町の『ショウハイ』の思い出」、

佳作には森岡智文さん(37)「阿南市桑野町」「庭の蚊帳」、大本泉さん(17)「阿波市阿波町」「私の心は、スポンジに」、熊谷和代さん(78)「徳島市八万町」「ベルリンの壁」に決まった。また、期待される新人への奨励賞には篠原碧祐さん(16)「文理高校二年生」「つれづれ」が選ばれた。一次審査を通過しながら、惜しくも入賞を逸した作者(作品)は野村暎一さん「銀の匙」、手束雅夫さん「なげきつつ」の思い、萬野行子さん「羨ましい人」、中村あゆみさん「ゆらぎ」であった。表彰式は9月9日午前10時30分から阿波観光ホテルで行われ、大賞、準大賞の朗読もある。大賞、準大賞作品は12月下旬発行の「徳島ペンクラブ選集 Part 36」に掲載される。

●田中富雄生誕100年記念展「田中富雄とその時代の作家たち」

10月27日～28日徳島県立文学書道館(詳細2ページ)

●徳島ペンクラブ選集 Part 36原稿提出のお願い(詳細2ページ)

●秋の文学旅行は、11月4日に淡路島へ(詳細4ページ)

ご参加を

県民文化祭の案内

恒例の企画展は「田中富雄とその時代の作家たち」

■平成30年10月27日(土)、28日(日) ■徳島県立文学書道館 1F ギャラリー

第20回県民文化祭分野別フェスティバル、今年は作家田中富雄の生誕100年になることからその記念展を開催します。田中富雄氏は徳島県立文学書道館常設展示作家であり、本会員でした。

展示内容は、田中富雄・岡田みゆき・中川静子ら「徳島作家」、「四国文学」の同人、そのほか同時代に活躍した作家の著作物、雑誌、自筆原稿、徳島県文学年譜など。

また、野上彰コーナーも設置し、詩碑建立関係資料なども展示します。ほかに田中富雄作品の中から「ことば」や「著書」を展示パネルにて紹介する予定です。

最終日の28日には座談会「田中富雄とその時代の作家たち」懐かしみ、大いに語り合おう」を開催します。出席者は、富永正志氏(徳島県立文学書道館館長)、橋本潤一郎氏(元「徳島作家」同人)、松崎慧氏(同)、竹内菊世(同・本会顧問)、進行「丁山俊彦(本会会長)。この日は田中富雄の「阿波圏」(徳島新聞連載)を読む朗読会も開催する予定です。

会期中にはDVD「田中富雄の世界」を上映します。特別コーナーとしてペンクラブ会員の著作物や、会員が主宰する(所属する)文芸団体の出版物・機関誌を展示します。

ペンクラブ選集 Part 36 作品提出のお願い

○特集作品及び一般作品

*特集作品①……………「田中富雄とその作家たち」

県民文化祭参加事業の田中富雄生誕100年記念展「田中富雄とその時代の作家たち」に関連した作品

*特集作品②……………「平成という時代」

平成という元号が残り僅かとなった今、顧みて思うことなどテーマに因んだ作品

*一般作品……………特集以外の作品(従来どおり)

○作品原稿

見開き2ページ、2000字を基本として偶数ページ(写真、イラスト等入れる場合はその分、文章を短く)

ペンクラブ賞が二部門になったため作品にジャンルを記入または、同封の整理票を添付

○掲載負担金

見開き2ページ7000円(追加1ページ2000円)後日会計から送付の郵便振替等でご負担ください

○原稿の締切

特集作品①②……………10月31日

一般作品……………10月15日

○送付先 〒771-1273

板野郡藍住町勝瑞字正喜地九三の一〇 上窪則子宛

電話(携帯) 080-5665-5247

メール norikok@mxinetwave.or.jp

ホームページができました。 情報をお寄せください。

メールアドレス
<http://tokushimapen.sakura.ne.jp/index.html>

徳島ペンクラブとは Tokushima pen club

徳島ペンクラブ会長 丁山 俊彦

徳島ペンクラブ規約

徳島ペンクラブの沿革

ペンクラブ通信



丁山 俊彦会長 ごあいさつ



ペンクラブに入会して30年もの月日が流れ去っています。入った
早々から事務職の仕事をするハズになってしまったのですが、このことが今の
自分を育ててくれたのだと思っています。初代の黒田会長をはじめ輝々たる
先生方の薫陶に接することができたのも、ペンクラブの仕事に恵まれたも
からです。県立文学書道館の常設展示作家には18人の歴代会長が選ばれ
ています。そんな偉大な会長の方々の後塵を拝することの大変さを痛感して
おります。
文学書道館の常設展示作家には元会長ばかりではなく、10人もの会員だった
方々が選ばれておりますことにはペンクラブにとって大きな誇りがあります。また
文学書道館建設にあたっては皆ペンクラブ会員の良力が大きな推進力となり
ました。皆さんの少しずつの協力が大きな力を生むものと思っています。ペン
クラブは創設30年にもなりましたが、文学は永遠です。オープンガーデンが盛
んなようですが、多くの人をペンクラブという開かれた「文学の庭」に誘いたい
と思っています。ご協力のほどよろしくお願ひします。

徳島ペンクラブ平成30年度役員

- ▽会長 丁山俊彦
- ▽副会長 田上善平 西池栄典 上藤晋樹 鈴木孝子 上藤則子
- ▽理事 安藤純太 木村英昭 辻本一英 山口久雄 高木 純 福島純寿

▲HPのトップページです

アカシア忌を11月3日に開催(ペンクラブ協賛)

徳島市出身の詩人野上彰の命日をアカシア忌として野上彰の
会が毎年偲ぶ会を開催していますが、今年も11月3日(土)に
つぎのとおり実施することになりました。

● 詩碑の清掃 午後3時から

場所 新町橋南詰公園

● コンサート(歌と朗読) 午後4時から

場所 コテイ(徳島駅前ポツポ街入口ビル7F) 参加無料

U-1エイサー

私事で恐縮ですが10年前に関
西でのサラリーマン生活に区切
りをつけて徳島にUターンしま
した。

当初一番困ったのは高校卒業
から約40年間徳島を留守にして
いましたので、高校時代
の友人もそれぞれの歳月
を隔ててすでに疎遠にな
っており、知り合いもほ
んどなく、また私自身
がなんの特技や取り柄も
ないため、自分の生きが
いになりそうなことと居
場所を探して、右往左往
の日々をしばらく送りま
した。

読書会のこと

その模索の過程で、詩

誌『逆光』の同人に一時所属し
ていたことがあり、その同人の
サークルとして読書会がありま
した。諸般の事情から『逆光』
を退会した後、『逆光』の読書
会から分離独立する形で、徳島
ペンクラブの理事をしておられ
る木村英昭さんと相談して二人
で読書会を立ち上げました。
会の設立趣旨としては、読書
会を通じて ①森羅万象を対象

にした知的探求 ②会員相互の
交流と懇親 ③会員のボケ封じ
でした。会の発足からすでに3
年余りを経過して、若干の出入
りはありましたが、現在の会員
は7名の方が在籍しています。
偶数月の日曜日の夕方から2ヶ
月に1回のペースで開催してい
ますが、対象の本をみんなを決
めて、読書の感想や触発された
意見を述べ合うというシンプル
な会の運営内容です。

場所は徳島駅から徒歩
約5分の『おりえんと』
という喫茶店です。私
のような不器用な者が
運営のお手伝いをす
る、細々とした亀の歩
みに似た読書会です
が、メンバーのご協力
のお蔭でいまだに存続
し、とり上げた本は30
冊を超えました。

読書好きで知的な好奇心が旺
盛な方、読書を通じての交流の
場と友人を求めている方、自分
の将来のボケが不安で心配な
方、以上3点のうち一つに該当
し、この会に興味がある方は、
老若男女を問わず歓迎ですの
で、渡部までご連絡をお願い致
します。

(携帯080・1468・9735)

渡部耕司

文学旅行
11月4日(日)

再発見 淡路島



ペンクラブ今年の文学旅行は、行楽シーズン真っただ中の11月4日(日)、本県とは一衣帯水の淡路島を訪ねる。神戸淡路鳴門自動車道の開通で、ともすれば素通りしてしまいがちな淡路島。しかし、江戸の末期には一時期、徳島藩に属していたことも。さらには人形浄瑠璃など、何かと本県とはなじみが深い。

今回の主目的の地は2カ所。一つは、作家司馬遼太郎の小説「菜の花の沖」で主人公となっている当地出身の豪商、高田屋嘉兵衛の名を冠した公園、ウエルネスパーク五色。瀬戸内の穏やかな海を見渡す広々とした風光明媚な丘陵地。地元出身で作詞家として数え切れないほどのヒットソングを世に送り出した阿久悠(本名・深田公之)を顕彰するモニュメントなど見どころが一杯。

もう一カ所は、洲本市中心街近くにある市立淡路文化史料館。ここでは、島の人と風土が生み出した美術工芸品や文学作品などが見学できる。淡路島出身、あるいは在住作家・俳人等の作品のほか、この島で幼少期を過ごした、南画家の第一人者・洲本市名誉市民の直原玉青記念館も併設されていて、見逃せない。

徳島駅横ポツポ街西側、四国大学交流プラザ前を11月4日(日)午前8時、大型観光バスで出発。途中、松茂とくとくターミナルに立ち寄り、一路淡路島へ。津名一宮ICで高速を下り、ウエルネスパーク五色 高田屋嘉兵衛公園を時間をかけて散策・見学。昼食は、きとら津名一宮店で新鮮な海鮮料理。午後は淡路文化史料館。最後に、淡路ファームパーク「ほんまもん市場」に立ち寄り帰路に。徳島駅西(出発地点)帰着は午後5時ごろの予定。

会費は6,000円(当日集金)。参加申し込みは、同封のがききに所定の事項を書き込み、10月20日までに投函してください。先着40人。
お問い合わせは、田上倉平(088・668・3563、携帯090・1328・1253)まで。

後記 編集

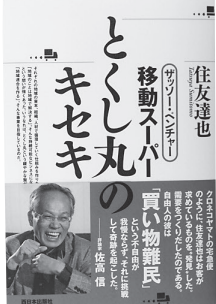
猛暑の夏の終わりに、涼風を呼び込んでくれたのが、第100回全国高校野球選手権大会での、秋田の金足農の活躍でした。「地方の力」の強さに拍手を送った人も多かったのでは……。
秋の県民文化祭のテーマは「田中富雄とその時代の作家たち」です。「地方」での先人たちの活躍と、残された土壌の上に、徳島ペンクラブがあります。盛況になりますよう、各位のご協力をお願いします。

新入会員

(敬称略)

- 池田 靖 〒770 8078 徳島市八万町橋本9-11
- 住友 達也 〒770 0865 徳島市福島1丁目2-18
- 鎌田 義人 〒770 0047 徳島市名東町1-118-6

祝 100歳!!
木村義次さん
現役で文筆活動中!ますますの御活躍を祈ります。



住友達也さん「とくし丸のキセキ」2018年8月に出版されました。「買物難民」のために移動スニーカーを創業。その記録と描かれている。西日本出版社・刊B6判、335頁。

ほんの散歩道

出版された方は、ご連絡下さい

東根泰章さん「豊中浪漫」「高松城」を作詩。クラウンミュージックより、歌手・成世昌平で、舞踊振付。カラオケ付でCD化。DAM(ダム)カラオケで全国配信中。

